

一般社団法人 音楽電子事業協会
一般社団法人 日本楽譜出版協会
共同調査

楽譜利用に関するアンケート報告書

< 元調査 報告書 文責 >
株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス

< 要約 >
一般社団法人 日本楽譜出版協会

楽譜の利用意向に関するアンケート

本稿の目的

無料の楽譜サービス等の利用実態などを知ることを通して楽譜ユーザーの購買動向を知る。
下記の条件にて実施

調査期間 : 2018年11月2日～11月9日
対象者の属性 : 20～69歳の男女
回答者数 : 59,878名（配信対象者：415,847名）
調査委託 : 株式会社ジャストシステム

上記目的を達成するための手段

現在の楽譜ユーザーの購買動向と無料楽譜の閲覧やコピー楽譜の利用に関する動向を調査し、結果及び分析内容を情報共有する。

手段詳細

全14問の質問で構成されるアンケート調査を行う。
質問の構成は

- 「演奏や楽譜の利用の頻度を問う」
- 「実店舗やネット通販、デジタル楽譜販売などの販売サービスおよび無料の楽譜閲覧サービスの利用実態を問う」
- 「紙およびデジタルのコピー楽譜の利用実態と利用理由を問う」
- 「望ましい楽譜商品・サービスを問う」

の4ブロックである。

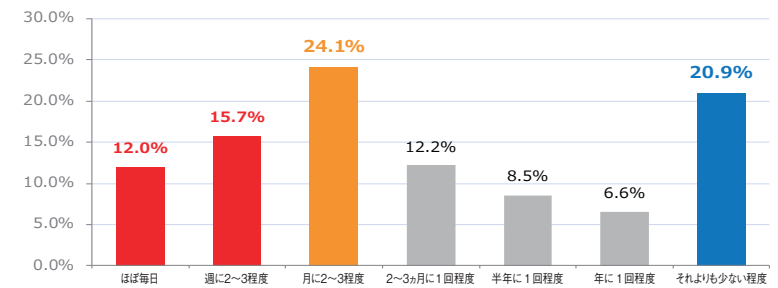
分析については、上記(2)(3)の回答内容の分析を中心に、「実店舗とネット系サービスの利用傾向に特徴はあるか」「コピー楽譜を利用している層にはどのような傾向があるか」などをクロス集計によって分析し、特徴及び今後の活動の示唆につながるような情報を抽出して共有する。

演奏や楽譜の利用の頻度

Q. 演奏頻度について

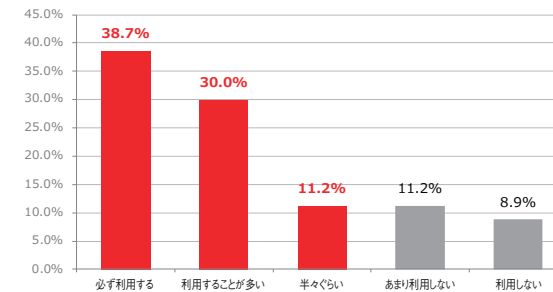
毎週演奏する人は **27.7%**
24.1% が月に2~3回演奏で最多。

一方、演奏が年1回未満の層は **20.9%**



Q. 演奏頻度について

楽器を演奏する際、楽譜を利用する層は全体の **8割**
楽譜の利用率は高い。



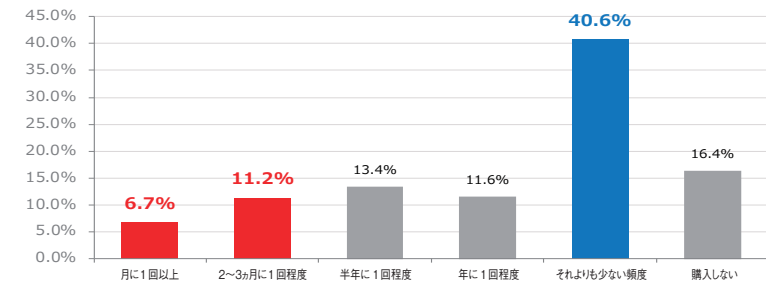
演奏の頻度と楽譜の利用意向の高さは比例する。
積極的に演奏活動をする層は楽譜の利用も積極的。

販売サービスおよび楽譜閲覧サービスの利用実態

Q. 実店舗での紙楽譜購入

実店舗で月に1回以上購入するユーザーは **6.7%**
 2~3ヶ月に1回以上購入するユーザーは **11.2%**
4割の人は1年に1回未満しか実店舗で購入しない。

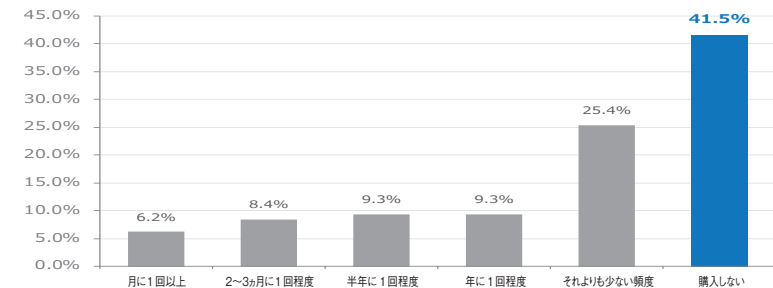
利用金額の最多レンジは **1,500円~3,000円未満**
 弦楽器・管楽器は利用金額が高く、ギター・鍵盤は低価格帯が多数。



Q. ネットでの紙楽譜購入

ネット通販を2~3ヶ月に1回以上利用する層は **14.6%**、
ネット通販で購入をしない層は全体の4割超
 ネット通販は浸透していないと想定される。

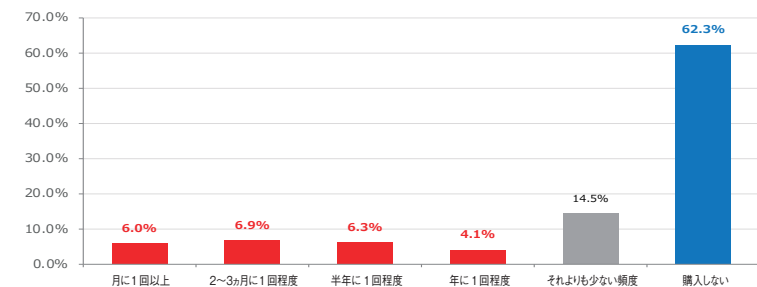
利用金額の最多レンジは **1,500円~3,000円未満**



Q. デジタル楽譜での購入

デジタル楽譜販売サービス (@ELISE やぷりんと楽譜など) を
 年間1回以上の購入は **23.3%**
6割超のユーザーは購入経験無し。
 デジタル楽譜は浸透していないと想定される。

利用金額の最多レンジは **500円~1,000円未満**

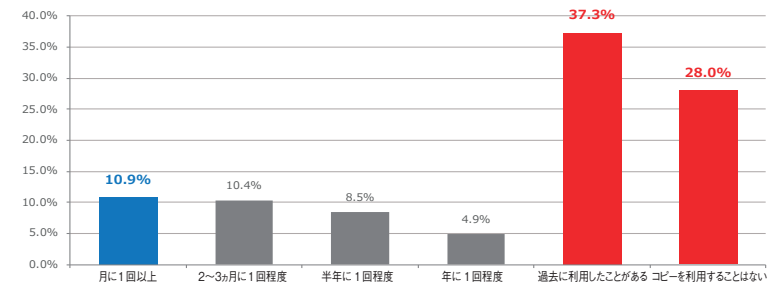


コピー楽譜の利用実態

Q. 紙のコピー楽譜の利用状況

紙のコピー楽譜を利用した経験者は全体の **7割**、1割は毎月利用している
pdf ファイル等によるデジタルコピーは全体の **4割**で、紙コピーの方が浸透している。

コピーを使う理由で最多回答は
「**演奏仲間や教室から渡されたから**」で43.6%、
次に「**欲しい楽譜が売っていないから**」で33.4%



紙・デジタルともコピー楽譜の使用意向は若い世代に高く、年代が上がるに連れて下がる傾向。高年齢層は一部の積極使用層と、多数の非使用層に分かれている。

デジタル楽譜の販売サービスの利用意向とデジタルコピーの使用意向は比例する。つまり、積極的にデジタル楽譜を購入する層はデジタルコピーも積極的に使用する。

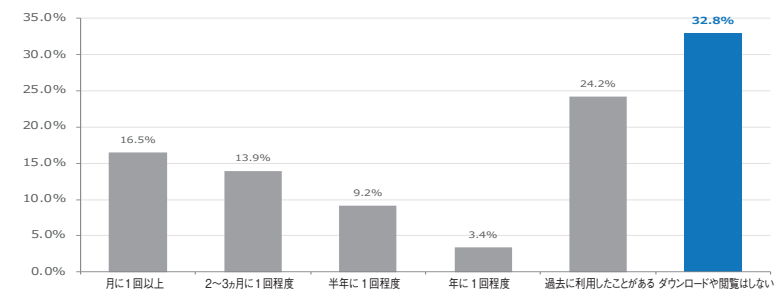
上記デジタルコピーの積極的な使用層のコピー楽譜を使用する最大の理由はカタログ不足である。

一方で、積極的ではないが、利用したことはあるという消極的使用層では、知人などから渡されて使用したという回答が最多を占める。

Q. 無料楽譜閲覧サービスの利用状況

無料の楽譜閲覧サービスを利用したことがある層が **7割**

GLNET+（現在サービス停止中）、楽器.me、U-FRET、等は一定の利用率がある。

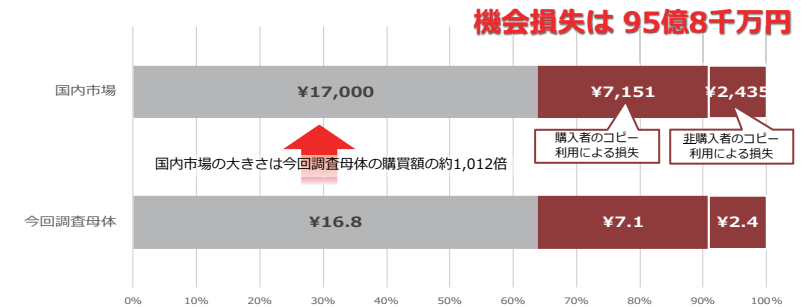


コピー楽譜による楽譜業界の経済的損失

紙コピー楽譜利用による経済損出

今回の調査母体における楽譜の購入傾向と一般社団法人 音楽電子事業協会 (AMEI) 調査によるコピー楽譜利用の傾向のデータをもとに、国内の紙コピー楽譜利用が有料購入に置き換わった場合の推計を行った。

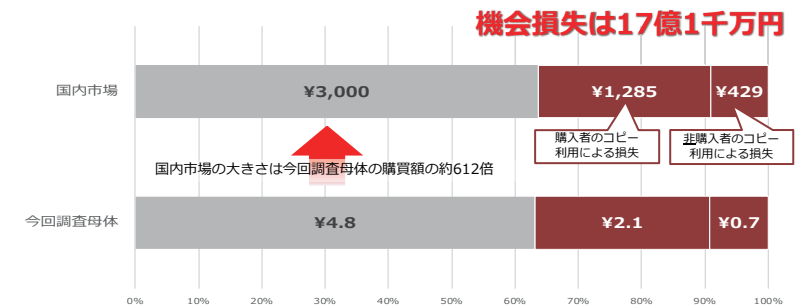
**紙のコピー楽譜により、実店舗及びネット通販において
95 億 8 千万円程度の機会損失が生じている可能性がある。**



デジタルコピー楽譜利用による経済損出

デジタルコピー楽譜により、PDF 販売サイトにおいて 17 億 1 千万円以上の機会損失が生じている可能性がある。

→紙とデジタルを合わせて、約 113 億円の機会損失



販売機会損失は 113 億円に上ると考えられ、利用者の不満を解消して、有料楽譜の適切な利用が拡大することが望まれる。